

## 公益社団法人 日本柔道整復師会 第45回中国学術大会広島大会

令和4年10月9日（日）9時30分より、広島ガーデンパレス2階「鳳凰」にて表記の学術大会が開催されました。

この度は、コロナ対策として、午前中のみ開催とし会場参加とオンライン参加によるハイブリット方式による開催となり、日本柔道整復師会の伊藤述史会長の挨拶の後、特別講演の医療法人野球医学ベースボール&スポーツクリニック理事長の馬見塚尚孝先生を講師に迎え、「肘靭帯断裂治療のイノベーション～Yuki Saito のチャレンジ」の演題で、手術を行わない新しい治療法についての講演を頂きました。

その後、休憩をはさみ、東亜大学の学生による学生研究発表、各県会員による会員研究発表。また別会場では、日整学術教育部の佐藤和伸先生による「超音波観察装置で見る膝から足部にかけての軟部組織損傷」と題して、エコーワークショップが開催されました。

島根県の会員発表は、永井康子会員による「柔道整復師のアスレティックトレーナーとしての関わり」と題して、島根県アスレティックトレーナー協会の認定資格を取得し普段より主に柔道現場においてトレーナー活動を行っておられる中で関わる事になった、膝の前十字靭帯損傷からの復帰プロセスを参考に柔道整復師の様々な活動における他職種との関わりにより、柔道整復師の更なる可能性についての発表となりました。

昨年の山口学会はオンライン開催、この度の広島学会はハイブリット方式、来年の岡山学会の詳細は未だ分かりませんが、徐々にwithコロナの方向になりつつあるように思われます。また再び多くの会員の方が集まり、充実した学会が開催出来る事を希望したいと思います。

